

認知症 気付けていたら…

419
朝日



男性が死亡してしまった公園(前夜トイヒ
近くに倒れているのを署員が確認してい
た)(8日、東京都中野区中野2丁目)

警官声かけ男性保護されず死亡

横浜市立の施設から行方不明になってしまった認知症の男性(当時83)が昨年8月、東京都中野区の公園で死亡した。2日前に警察が2度接触しながら、認知症であることに気付かず、行方不明者のデータベース(DB)に照会したら保管料金を支払った。徘徊する認知症の人をどうすれば救えるのか。

横浜市地域巡回課による
と、男性は横浜市鶴見区の
通所介護施設から08年19日
に行方不明になった。家族
はこの日、神奈川県警に行
方不明者届を提出。名前や
身体特徴などの情報は、警
察庁が管理するDBに投入さ
れ、全国の警察が照会で

きる状態にならなかった。
2日後の21日午前、男性
は中野区の路上で倒れていた。微熱があり、のどの渦
きを訴えたものの、中野署
員が名前を聞くとほつきり
答え、歩いて帰れるかどうか
か尋ねると、「帰れる」。男
性はカツターシャツにジ

別の署名をもつて見えた。男性は「大丈夫」と繰り返し、救急搬送も拒んだ。署員はホームページと思い、やはり照会しなかった。

2日後の朝、公園で男性の遺体が見つかった。死因は脱水症と低栄養。連日30度を超える暑さだった。

車を運転して事故を起したり、徘徊した先で列車にはねられて家族が鉄道会社から賠償を求められたりする深刻な事例もある。過高齧化社会は、こうした事案への対応が欠かせなくなっている。

る。1人で行動するのが難しそうだ
と思ったら「家族の人に連絡しまし
ょうか?」と促したり、周囲に助け
を求めたりすることも考えたほうが
いいこと言う。

認知症の人が安心して外出できる
まわりぐるを自指し見守り・声かけ

ンズ姿で、黒々とした髪。署員は近所の人と思い込みD.B照会をしなかった。男性は認知症で、生年月日を20年若く答えていたが、違和感を抱かなかった。近くの公園で男性を休ませて、現場を離れた。

その日の夜も、警察が照会するタイミングはあつた。公園のトイレで倒れていた男性を通行人が見つけた。内容は「60代くらいの醉客が寝ている」。やはり若く見られ、駆けつけた通報。

遺体発見当日、署は初めでDBに照会。だが、外見から「60～70歳」で検索したため、ヒットしなかった。後日、「50～80歳」に広げて再検索したが、83歳の男性の情報は表示されなかつた。身元不明遺体としてホームページに公開されていいるのを家族が今年2月に気付き、身元が判明した。

警視庁だけで1年間に受理する行方不明者届は約4千～5千件。照会する際は効率化のため、年齢幅を狭

「市民も見守りならできる」

「市民も見守りや声かけなのであります。警察や消防、行政、地域包括支援センターなどの連携の強化も欠かせない。地域ぐるみで、気になる人を放つておかない」という意識を持つことが大切だ」。大谷さんは指摘する。